

凸凹ライフレター

Vol.29 2025年10月発行（偶数月発行）

凸凹なライフをおくる 私たちのニュースレター

今号のトピックス

- ・【報告】宮崎市の津波避難場所「命の丘」を視察しました
- ・【報告】第12回 成人発達障害支援学会 東京大会にてポスター報告・シンポジウム登壇を行いました
- ・【ご案内】「合理的配慮を求める」をテーマに寄稿を募集しています

祝十
周年

特定非営利活動法人凸凹ライフデザイン

HP : <https://unevennpo.wixsite.com/decoboco>

FB : <https://www.facebook.com/uneven.npo>

Twitter : https://twitter.com/uneven_npo

Mail : uneven.npo@gmail.com



報告

インクルーシブ防災の取り組み 宮崎市の津波避難場所「命の丘」を視察しました

凸凹ライフデザインでは、2016年熊本地震の際に障害者相互支援活動を行ったことなどをきっかけに、インクルーシブ防災の取り組みを継続しています。

9月12日、宮崎市の津波避難場所・海嘯避難地点「命の丘」（宮崎市港東）を視察しました。ここは島になっている地区で、主に港湾関係者の逃げ場になると想定されます。階段またはなだらかな坂になっている道路を上ると海拔13.5mの場所に、一時的に百人単位で避難できそうな広さの広場になっていました。

熊本は南海トラフ地震の影響のリスクは低いと思われますが、大規模な災害の際には地域を越えて、広範囲の連携が欠かせません。防災に完璧はないだけに、日ごろから関心を持って少しずつ準備をするなど、生活の中に防災の視点を取り入れていくことが大切だと感じました。

みなさんも自分の住む地域の避難場所や経路などをぜひ今一度確認してみると良いでしょう。



9月12日(金)宮崎市の津波避難場所・海嘯避難地点「命の丘」

障害学会第22回大会に参加しました

障害学会第22回大会は9月20日・21日に女子栄養大学坂戸キャンパスにて開催されました。

ポスター報告では発達障害に関する研究も多く、また当事者による研究もありました。大会2日目のシンポジウムは「医学研究における当事者参画」をテーマに、研究者、当事者、複数の立場を持つ人などから経験と展望が話され、多くの参加者から熱心な質問が上がり、関心の高さがうかがえました。

来年は愛知県での開催が予定されています。これから、障害学に多くの方の関心が集まることを期待します。



▲大会シンポジウム
「医学研究における
当事者参画」会場



ご案内

「合理的配慮を求める」をテーマに 寄稿を募集しています

今年度、太陽生命厚生財団助成事業として「合理的配慮を求める」をテーマに新たに啓発冊子の作成を行っています。現在、合理的配慮についての文章のご寄稿を広く募集しています。ご自身の経験やそこからの思いなどを自由にお書きください。お預かりした文章は原則としてそのまま、発行する冊子に掲載いたします。ご寄稿者へは発行後、1部郵送にて贈呈します。合わせて、テーマに沿ったイラストや写真などの作品も募集しています。

作品募集

あなたの経験や思いを
文章にして寄ってください

募集期間：9月22日～2026年1月18日



合理的配慮を求める

発達障害や精神障害のある私たち

自分が必要なもの、どのように伝えたいですか？

私たちの声を冊子にして発信します
特定非営利活動法人凸凹ライフデザイン

2026年1月18日までの募集です。お待ちしております。



募集要項ページ▶

当事者会きなっせ！九州の運営サポートをしています

福岡市の発達障害当事者グループきなっせ！九州は、当団体の障害当事者会センターが運営のサポートをしています。毎月1回、当事者以外の方も参加できる時間も設けています。ぜひご参加ください。



ホームページ

わたしたちの活動は みなさまのご寄付に支えられています



【お振込先】
ゆうちょ銀行
口座名義：特定非営利活動法人凸凹ライフデザイン

※ゆうちょ銀行からのお振替の場合
記号番号：（記号）17120 （番号）32022891
※他金融機関からのお振り込みの場合
店番：718 普通預金 口座番号：3202289

☆賛助会員も募集しています！詳しくはHPをご覧ください。

報告

2025年10月11日(土)・12日(日) 第12回 成人発達障害支援学会 東京大会にて ポスター報告・シンポジウム登壇を行いました

10月11日(土)・12日(日)の2日間、一橋大学一橋講堂で、第12回成人発達障害支援学会東京大会が、昭和医科大学の太田晴久先生を大会長に開催されました。参加申込者は500名程、その内の3分の1程が当事者・学生枠での申し込みだったそうです。どの会場も参加者で一杯になっていました。

凸凹ライフデザインは、福岡の発達障害当事者グループきなっせ！九州・熊本県発達障害当事者会Little bit・宮崎青年・成人発達障害当事者会ShiKiBuの4団体合同で、ポスターセッション1にて「九州における発達障害当事者団体の相互連携による実践の報告：対話と継続の実践」のタイトルで相良が実践報告を行いました。成人発達障害支援学会はポスターについても、司会の元10分の報告枠が設けられており、来場参加者を前に口頭で報告ができます。4団体の共通の取り組みである「交流・対話・発信」について伝えました。

太田先生や昭和医科大学の方々よりお声をいただき、11日の夕方のワールドカフェに参加し、12日、一橋講堂で行われた朝日新聞厚生文化事業団助成企画「話し合いから見た明日の発達障害支援～ワールドカフェのあとに～」に当団体から相良が登壇し、当事者の立場で話題提供をしました。

ご一緒した、ご家族の浅野さん、精神保健福祉士の千代岡さん

んからのお言葉からも、私たち当事者主体での支援が広がる未来について希望をいただきました。フロアに開かれた後には次々に感想や質問が上がり、昨日のワールドカフェのような立場を越えての率直な話ができる場をつくり続けることの大切さが共有されました。

左から昭和医科大学横山さん、千代岡さん、浅野さん、相良、太田先生▶

